

第 102 回助産師国家試験分析報告

第 102 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、各設問から出題内容のバランスを平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標別に分類した。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ① 設問と解答肢の検討
- ② タキソノミー分類および平成 30 年版助産師国家試験出題基準からみた出題内容のバランス
- ③ 助産師 免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 102 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午前問題 28 と午後問題 34 を課題のある問題と判断した。詳細については表 1 を参照されたい。

全体的に出題の意図が明確で基本的知識を問う良質な問題が多く、実際の助産実践に即した問題が増えていた。また、文章で問うことが難しい問題については、イラストや写真などの視覚素材を用いて具体的に出題されていた。しかしながら、解答に必要としない情報が含まれている設問、逆に解答するための情報が不十分と思われる問題もみられた。

II. 出題内容のバランス

出題内容のバランスについては「平成 30 年版助産師国家試験出題基準別にみた出題テーマ」（表 2）、および「出題基準目標別の問題数とその割合」（表 3）、「平成 30 年版助産師国家試験出題基準別にみた国家試験出題数」（表 4）を参照されたい。知識の想起・推定によって解答できる問題（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型）が 62.6%と多く、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題（タキソノミーⅡ・Ⅲ型）の増加が望まれる。

平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標は、以下の 4 群 24 項目に分類される。

【基礎助産学】

1. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。
2. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。
3. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。
4. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

【助産診断・技術学】

5. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要な相談・教育について基本的な理解を問う。
6. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。
7. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。

8. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
9. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。
10. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
11. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
12. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。
13. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。
14. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
15. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産褥婦への支援について基本的な理解を問う。
16. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
17. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。
18. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。
19. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。
20. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

【地域母子保健】

21. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。
22. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。
23. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

【助産管理】

24. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標別の問題数とその割合（表 3）より、出題割合の多い順に、第 102 回は助産診断・技術学 55.0%（第 101 回 50.9%）、基礎助産学 29.0%（第 101 回 31.8%）、助産管理 9.9%（第 101 回 11.8%）、地域母子保健 6.1%（第 101 回 5.5%）となっており、助産診断・技術学および地域母子保健の割合が増加していた。

また、今年度の問題のタキソノミー分類は、タキソノミー I 型 58 問（44.3%）、I' 型 24 問（18.3%）、タキソノミー II 型 29 問（22.1%）、III 型 20 問（15.3%）であり、タキソノミー I 型（知識の想起・推定によって解答できる問題）が最も多く、タキソノミー III 型（複数の知識を統合して判断する能力をみる問題）の割合が最も少なかった。

基礎助産学に関する問題の割合は、38 問（タキソノミー I・I' 型 33 問、タキソノミー II・III 型 5 問）で全体の 29.0%であった。その内訳では、周産期の正常経過等の基礎理解に関する問題、女性の健康支援のための基礎理解に関する問題の順に多く、基本理念、基本姿勢からは出題されていなかった。

助産診断・技術学に関する問題の割合は、72 問（タキソノミー I・I' 型 31 問、タキソノミー II・III 型 41 問）で全体の 55.0%であった。その内訳では、妊娠期の診断とケアに関する問題が 18 問（タキソノミー I・I' 型 6 問、タキソノミー II・III 型 12 問）で全体の 13.8%であり、第 100 回（21.8%）・第 101 回（14.6%）と比べて少なかった。そのうち、妊娠期の助産診断と支援に関する問題と、正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク妊婦への支援に関する問題は同じ割合を占めていた。分娩期の診断とケアに関する問題の割合は、26 問（タキソノミー I・I' 型 10 問、タキソノミー II・III 型 16 問）で全体の 19.8%であり、昨年（第 101 回）の 12.7%と比べて多かった。産褥期の診断とケアに関する問題の割合は、8 問（タキソノミー I 型 1 問、タキソノミー II・III 型 7 問）で全体の 6.1%であり、昨年（第 101 回）の 3.6%と比べて倍増していた。新

生児期の診断とケアに関する問題の割合は、9問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型7問、タキソノミーⅡ型2問）で全体の7.1%であり、昨年（第101回）の7.3%とほぼ同じ割合であった。乳幼児期の診断とケアに関する問題の割合は、1問（タキソノミーⅠ'型）で全体の0.8%であり、昨年（第101回）の3.6%と比べて少なかった。低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援に関する問題は、4問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型3問、タキソノミーⅢ型1問）で全体の3.1%であり、昨年（第101回）の5.5%と比べて少なかった。

地域母子保健に関する問題の割合は、8問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型7問、タキソノミーⅢ型1問）で全体の6.1%であり、昨年（第101回）の5.5%と比べて多く、母子保健行政と母子保健制度・施策に関する問題が最も多く出題されていた。

助産管理に関する問題の割合は、13問（タキソノミーⅠ・Ⅰ'型11問、タキソノミーⅢ型2問）で全体の9.9%であり、昨年（第101回）の11.8%と比べて少なかった。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

平成30年版助産師国家試験出題基準別にみた国家試験出題数（表4）、出題基準目標別の問題数とその割合（表3）より、タキソノミーⅠ・Ⅰ'型の主に知識を問うものが62.6%と多かった。また、解釈・判断を求めるタキソノミーⅡ型は22.1%、さらに高度な判断能力を問うタキソノミーⅢ型は15.3%を占めていた。昨年度までは知識・技術・態度による分類をしており、単純な比較はできないが、参考までに過去3年間の割合を呈示する。知識を問う問題が第101回76.4%、第100回72.7%、第99回67.3%、技術・態度を問う問題第101回23.6%、第100回27.3%、第99回32.7%であった。

出題内容では、助産学の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常及び正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。また、母子保健行政と母子保健制度・施策および地域母子保健活動、院内助産、病院・助産院を含めた助産業務管理、医療事故防止対策、災害時の支援に関する問題など、母子保健医療の現状に合わせた問題も出題されていた。

助産師は知識を基盤とし、現象の解釈・判断を含めた実践能力が求められる専門職であるため、今回の出題割合は適切と考える。

総括

1. 出題問題の検討については、2問を課題のある問題と判断した。
2. 全体的に出題の意図が明確で基本的知識を問う良質な問題が多く、実際の助産実践に即した問題が増え、イラストや写真などの視覚素材を有効に活用した出題となっていた。しかしながら、解答に必要としない情報が含まれている設問、逆に解答するための情報が不十分と思われる問題もみられた。
3. 助産師国家試験出題基準に沿った問題の内訳では、知識の想起・推定によって解答できる問題（タキソノミーⅠ、Ⅰ'型）が62.6%と多く、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題（タキソノミーⅡ・Ⅲ型）の増加が望まれる。
4. 現在のハイリスク妊婦の増加に伴い、妊娠期・分娩期・産褥期（新生児期を含む）の診断とケアの設問においては、異常の知識を問う設問や今日の周産期課題とニーズに合う内容が出題されていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。

以上